4

観光・産業部門

計画概要

賑わいあふれるまちづくり

２１世紀は「大交流時代」、「大観光時代」といわれ、国は観光庁を発足し、観光をもっとも主要な産業に位置づけ観光立国を推進している。

一方、本市の宿泊客数は、旅行形態やニーズの変化、海外旅行の増加などにより、昭和４０年代半ばをピークに減少してきた。

また、全国総観光地化・総リゾート地化も進んでおり、国内外での都市間競争・観光地間競争は、更に激化していくと思われる。

このような状況に打ち勝つため、今ある観光資源を磨き上げるとともに、新たな資源を発掘し、様々な切り口から魅力を発信し続けることにより、多くの人々が憧憬をもって訪れ、満足していただける観光地を目指していく必要がある。

そのため、本市の最大の観光資産である温泉や豊かな自然環境、歴史・文化資源を活用し、温泉情緒が感じられ、歩いてみたくなる雰囲気づくりを進めるなど、訪れた人々がゆっくりしたくなる宿泊環境の整備を推進し、長期滞在を促す。

「熱海ならでは」の主役になれる参加型・体験型の観光プログラムの創出やまち歩きを推進する。また、観光イベントを検証し、誘客効果が上がるよう見直しをするとともに、観光面での広域的な連携を進め、特色ある広域観光ネットワークを構築する。

さらに、まち全体で来遊客を温かく迎える姿勢が重要であり、おもてなし研修や、市民自らの積極的な情報発信の取り組みやボランティアとの連携を図る。

本市の観光事業の発展と人々の交流を更に促進させるため不可欠である利便性の高い、交通ネットワークの整備を関係機関に要望するとともに、新たな市内交通システムを検討する。

また、富士山静岡空港の開港に伴い、今後更に増加が見込まれる近隣アジア諸国への誘客活動（*インバウンド）（解説 P.123）を活発化するとともに、受け入れ体制の整備や、広域的な観光ルートの開発などに努める。

活力あふれるまちづくり

経済不況に加え、消費スタイルや購入スタイルの変化により、郊外や大都市の大型店との競争激化、低価格志向の進展など商店街等を取り巻く社会経済環境は大変厳しくなっている。また、観光地の商店街として、市民だけでなく来遊客のニーズにも合わせた営業を図ることや、少子高齢化に対応した買い物環境を整備する必要性が高まっていることなど、多くの課題を抱えている。

そこで、日本有数の温泉地である熱海の特徴を生かしつつ、にぎわいあふれる商業のまちづくりを実現するため、商店街の将来ビジョンを作成して、中心市街地における商業振興の方向性を示すとともに、歩いて楽しく買い物ができる環境と景観づくりを重点的に支援するなど、効果的かつ効率的な活性化方策を進めていく。

農業については、生産基盤を守るため、後継者の育成や農業ボランティアの確保充実などにより、人手不足を解消し農地の保全に努める。また、経営安定化のため、有害鳥獣対策を継続し、付加価値のある農法の普及・拡大により、地元特産品の生産促進とブランド化を図る。林業については、森林機能の保全や野外レクリエーションに対応して、林道や散策道の整備と森林の維持管理を支援する。

水産業については、経営安定化のため、育てる漁業や販路の開拓を支援するとともに、老朽化した漁港施設の近代化及び観光と結びつけた活性化の方策をまとめ、その実現を目指す。また、水産加工品の新商品開発を支援し、地場水産物と郷土料理の情報発信を強化しブランド化を図る。

市民生活の安定・向上のためには、景気に左右されない経済基盤が必要であり、既存の中小企業の発展はもちろん、熱海に適した新たな産業を誘致するとともに、異業種間の交流や地域資源の活用による新商品・新事業の創出への必要な支援を進めていく。

また、関係機関及び企業と連携して就労機会の確保を図るとともに、子育てと仕事が両立できるよう労働環境の整備を促進する。

1 賑わいあふれるまちづくり

1 観光産業

1 ゆっくりしたくなる宿泊環境の整備 4-1-1-1

現状と課題

■ 短期間での観光が大半であり、リフレッシュしていただくためには、長期滞在を促すような付加価値の高い温泉の魅力づくりが求められている。

■ 豊かな自然資源と温暖な気候に育まれた、「梅園の梅」や「あたみ桜」をはじめ、様々な特徴ある花木を観光地熱海の魅力のひとつとする必要がある。

■ 美しい山や海に囲まれていながら、季節などによってはその資源を活用しきれていないため、大切かつ有効に活用していくことが望まれる。

■ 歴史的・文化的に価値の高い資源が多く存在しているが、その多くが観光資源、観光施設として活用しきれていない。

施策の方向

ゆっくりしたくなる宿泊環境の整備
- 温泉の活用
- 自然資源の活用
- 歴史・文化の活用

（1）温泉の活用

1．熱海の中心部に熱海温泉のシンボルとなるような施設を検討する。
2．首都圏からの日帰り客や、長期滞在の連泊客も楽しめる外湯めぐりや内湯めぐりを推進するため、それに対応できる温泉施設の充実を支援する。
3．温泉を浴用だけではなく、飲用やその熱エネルギーを利用したハウス栽培など、多目的な利用を検討する。
4．長期滞在を促進するため、温泉と健康を結ぶような新たな湯治スタイル（温泉･食事･運動・医療をセット）の企画を支援する。

（2）自然資源の活用

1．四季折々の*フラワーツーリズム（解説 P.128）を推進するため、温暖な気候ならではの南欧香る花木や日本列島で最も早く咲く「あたみ桜」と早咲きが特色の「梅園の梅」をめぐる散策ルートを整備するとともに、どこよりも早い春を内外にアピールする。
2．心なごむ観光地を目指し、市民･企業･行政が協力し、「熱海花のまちづくり実施計画」を推進する。
3．*ネイチャーツアー（解説 P.127）を推進するため、自然を生かした公園と既存のハイキングコースを充実する。
4．食の観光を推進するため、海山から獲れる四季折々の豊富な食材の活用を支援する。
5．夏季の海水浴利用だけでなく、美しくて穏やかな海岸エリアで行う体験ツアーの推進や、砂浜を使ったビーチスポーツ大会を誘致する。
6．美しい海山の自然が身近に感じられる長浜周辺に、*まちの駅（解説P.129）や展望広場などの施設を整備する。
7．市街地に隣接した憩いと安らぎの場として林ガ丘公園の開園を目指し、整備を推進する。
8．南熱海地区の花の名所づくりとして、「さくらの名所散策路」の完成を目指す。

（3）歴史・文化の活用

1．歴史的、文化的に価値の高い資源を保護するとともに、歴史的背景を掘り起こすことで新たな魅力を発掘し、積極的に歴史文化観光ルートの開発をする。
2．伝統芸能として芸妓文化の一層の活用を図るとともに、保存・伝承していくために、湯めまちをどり「華の舞」を積極的に支援する。また、隠れた文化を掘り起こし、国

内外に情報発信をする。

3．起雲閣や澤田政廣記念美術館などの文化的な魅力をインターネットなどを活用し、国内外に発信する。

2　主役になれる体験型観光

4-1-1-2

現状と課題

■　最大の資源「温泉」に光をあて、熱海温泉の歴史・文化を発掘していく必要がある。

■　参加・体験型観光、*着地型観光（解説 P.126）やグループ旅行の増加など、観光形態やニーズが変化・多様化しており、これらに対応する必要がある。

施策の方向

主役になれる体験型観光
- 観光資源の創出
- 歩いて楽しいまち

（1）観光資源の創出

1．漁業、農業など異業種との交流により新しい観光資源を発掘し、「熱海ならでは」の体験をできる観光プログラムを創出する。

2．「だいだい」など地元の特産物を活用した新たなスイーツ作りの体験旅行を支援するとともに、それらを観光資源として情報発信する。

（2）歩いて楽しいまち

1．熱海の新しいすごし方を体験できる「熱海温泉玉手箱（オンたま）」などによる、魅力あるまち歩きを推進する。

2．*「ヘルスツーリズム」（解説 P.128）、*「ブルーツーリズム」（解説 P.128）、*「グリーンツーリズム」（解説 P.124）、*「ジャパニズムツーリズム」（解説 P.125）などの新たな旅行形態に対応して、「温泉」・「海」・「山」などの自然や「芸妓見番」などの歴史・文化を生かした体験プログラムを開発し、*着地型観光（解説 P.126）を整備し、積極的に発信することで誘客に努める。

3．光による風景を熱海の新しい景観として位置づけ、夜景が楽しめるポイントや夜の散策ルートを開拓する。

3 賑わいあふれる観光

4-1-1-3

現状と課題

■ 経済情勢や旅行形態の変化･ニーズの多様化などにより、昭和４０年代後半以降、徐々に来熱客が減少しており、観光客の大幅な増加を図ることが求められている。

■ 多くのイベントを実施しているが、誘客効果を検証し、より効果的なイベントの企画･実施が求められている。

■ 情報発信が不十分であり、目的や手段の多様化などに対応した、効果的な観光情報の発信を行うことが重要である。

■ 足湯や七湯などの施設以外は温泉が屋内に限定されており、屋外にも温泉情緒があふれ、心身ともに癒される現代の湯治場が求められている。

■ 市街地の近代化や建築基準の変化により、建物の構造や外観が混在し、統一感がない。熱海温泉の中心となるエリアは統一した街並み整備をする必要がある。

■ 国内観光客はもとより *インバウンド（解説 P.123）推進のための誘客事業は、市の単独実施が多い。十分な効果をあげるために、近隣市町と連携して各地域の魅力ある観光資源の広域的なネットワーク化が必要である。

施策の方向

賑わいあふれる観光
- 効果的な観光イベントと情報発信
- 温泉情緒の演出
- 広域的な連携

（1）効果的な観光イベントと情報発信

1．既存の各種イベントの満足度やマーケティングの調査・分析を行い、効果的なイベントを重点的に実施し、効果の少ないイベントについては、廃止も含めた見直しをする。

2．観光関連機関・団体のスキルアップのため、専門家と協働で誘客に有効な新しい観光イベントの展開や国際化への対応を図る。

3．インターネットや携帯情報端末など、多様化している情報の入手方法に対応した情報発信をしていく。

4．誰もが安全で快適に市内を回遊できるように、案内看板の *ユニバーサルデザイン（解説 P.129）化を進める。

（2）温泉情緒の演出

1．温泉情緒あふれる街並みを再現するため、温泉場の魅力である「湯けむり」･「外湯」･「足湯」･「手湯」など、気軽に温泉にふれることができる環境を整備する。

2．観光客が温泉情緒を楽しみながらまち歩きができるような道の整備をする。
3．温泉場の原風景を再現するため、熱海温泉の中心となる湯前神社・大湯間歇泉から熱海七湯周辺の街路・景観・観光施設などを整備するとともに、建物の外観を誘導し、統一した街並みにする。
4．街に賑わいをもたらし、観光産業を支える芸妓組合や飲食関係組合等への支援をする。

（3）広域的な連携

1．富士箱根伊豆の各自治体の持つ歴史・文化・自然などの観光資源を相互に活用し、特色ある広域観光ネットワークを構築する。
2．２泊３日以上の滞在を促進するため、観光圏の構成市町と連携して誘客活動や情報発信を実施する。

4　人の温かさを感じるまち

4-1-1-4

現状と課題

■　観光や公共交通機関などの関係者だけの誘客やおもてなしとなっているが、まち全体で観光客を迎えられるよう市民に対する啓発活動を進める必要がある。
■　各種ボランティア活動が個別の活動にとどまっており、観光まちづくりを活性化するためには連携をする必要がある。

施策の方向

人の温かさを感じるまち
- 観光地の人づくり
- ボランティアとの連携

（1）観光地の人づくり

1．まちを挙げて温かいおもてなしの心で対応するため、ホスピタリティの向上につながる研修や公開講座などを実施する。
2．郷土の歴史や文化などの観光資源に関する知識を高めるよう、子どもたちへの観光地教育を推進する。
3．市民自らが積極的に熱海の情報発信ができるような取り組みを推進する。

（2）ボランティアとの連携

1．市民が観光イベントへの積極的な参加ができるような体制をつくるなど、多くのボラ

ンティアとの連携を図る。

2．新たなボランティア組織や人材を養成するため、市民への観光地教育や啓蒙活動を実施する。

5 利便性の高い交通ネットワーク

4-1-1-5

現状と課題

■ 週末や行楽シーズンの交通渋滞は観光地に経済的な損失を与え、観光客の交通事故の増加につながることから、渋滞がなく走りやすい道路整備が求められている。

■ 来熱客の約７割は首都圏からであり、誘客を図るうえで首都圏からのアクセスの利便性を向上するための鉄道や航路などの整備が必要である。

■ 観光ポイントが坂道の多いまちなかに点在しているため、観光客のニーズに合った移動に対応できる市内交通網の整備が必要である。

■ 観光シーズンにおける交通渋滞解消に向けた新たな交通システムの研究が求められている。

施策の方向

利便性の高い交通ネットワーク
- 広域交通網の整備
- 鉄道、船舶の乗り入れ促進
- 市内交通網の整備

（1）広域交通網の整備

1．首都圏とのアクセスの向上を図るとともに、観光客の防災上の安全を確保するため、*伊豆湘南道路（解説 P.123）の早期建設を国・県の関係機関に要望していく。

2．首都圏からの箱根や伊豆方面への観光客を安全にお迎えするために、国・県道の抜本改良を関係機関に要望する。

（2）鉄道、船舶の乗り入れ促進

1．熱海駅と周辺については、伊豆地域の玄関口にふさわしい機能的で景観に配慮した整備を推進する。

2．ひかり号の熱海駅停車回数の拡大や湘南新宿ライン・成田エクスプレスの乗り入れを関係機関に強く要望する。

3．富士山静岡空港のアクセスとして、直通バスやＪＲ特別急行などの交通網の整備を行うよう関係機関に要望する。

4．海路による誘客促進と新たな観光スタイルを確立するため、国内外の旅客船やクルーズ船が常時接岸できる港湾施設や旅客船ターミナルの整備を国・県に強く要望する。

（3）市内交通網の整備

1．観光客の機動性の向上と環境にやさしい移動手段として、*パーク＆サイクル(解説P.128)などを検討する。

2．水上タクシーなど渋滞がなく回遊性のある新しい海上交通について関係機関と連携しながら検討する。

3．交通渋滞などの情報を迅速に分かりやすく提供できる仕組みを関係機関と連携して検討する。

6 国際観光への対応

4-1-1-6

現状と課題

■ 富士山静岡空港が開港し、外国人とりわけ近隣アジア諸国からの観光客増加が期待される。その受け入れ体制の整備とともに、積極的に宣伝･誘客活動を進める必要がある。

■ 地域の国際化を進めるためには、観光関係者や施設だけでなく、市民の自発的な活動も必要である。

■ 高度情報技術の発展と今日の交通手段の多様化は、距離や時間を越えて広範囲な異業種や異文化の交流をもたらしており、受け入れ側もそれを理解する必要がある。

施策の方向

国際観光への対応
- 外国人観光客の誘致
- 外国人観光客の受け入れ体制の整備
- 国際理解の推進

（1）外国人観光客の誘致

1．富士箱根伊豆国際観光テーマ地区静岡県協議会と連携し、外国人観光客誘致のための各種観光宣伝事業を推進する。
2．熱海国際経済交流会を支援し、東アジア地域からの誘客を中心にプロモーション活動を強化する。
3．観光エージェントなどの関係機関と連携して、外国人観光客のニーズを調査・分析し、観光ルートの開発を行う。
4．ビジネス目的の外国人を積極的に誘致するため、＊ＭＩＣＥ（解説 P.122）を通じた利用促進とＰＲ情報を発信する。

（2）外国人観光客の受け入れ体制の整備

1．外国人観光客が一人でも、まちを散策できるように、関連団体と連携して標識・市街地図・観光パンフレットなどの案内媒体やインターネットによる情報を英語・中国語・韓国語などで表記する。
2．外国人が楽しく観光できるように、ボランティア通訳の活動を支援する。
3．外国人観光客が飲食店やみやげ物店などを利用しやすくするため、職種別の対応マニュアルの作成を商工会議所等の関係機関に働きかける。
4．外国人観光客の利便性向上のため、各旅館ホテルなどへの両替所の開設やカード決済ができるよう積極的に誘導する。
5．国際観光地づくりを推進するため、来遊客が非日常性を楽しめる複合型エンターテイメントの誘致を検討する。

（3）国際理解の推進

1．国際的な視野・感覚を備えた人材を育成するため、市民の国際交流活動を支援する。
2．民間での国際交流を推進するために、熱海国際交流協会の活動を支援する。
3．姉妹都市や友好都市間の交流を促進するため、相互の情報提供などを行うとともに、市民同士の交流を支援する。

2 活力あふれるまちづくり

1 商工業

1 活力ある商工業の推進

4-2-1-1

現状と課題

■ 経済不況に加え、消費スタイルの変化などにより来遊客が減少し、商店街等を取り巻く社会経済環境はたいへん厳しくなっており、活性化が求められている。

■ 空き店舗の増加が商店街の連続性を断ち、魅力や価値観を喪失させており、原因となる就業者の高齢化と後継者不足に対応する必要がある。

■ 就業者の高齢化と後継者不足が伝統技術の伝承や商工業の振興の大きな課題となっている。

■ 地域コミュニティの中心として商店街の役割が注目されている。

■ 商店街間の連携や組織の強化など商工会議所や商店街連盟の役割が増大している。

施策の方向

活力ある商工業の推進
- 賑わいのある商店街づくり
- 地場産業の振興
- 経営の安定化

（1）賑わいのある商店街づくり

1．*地域商店街活性化法（解説 P.126）などを踏まえ、商工会議所や地元商業者等と協力して商店街の将来ビジョンを作成し、効率的で効果的な活性化を図る。
2．営業時間の延長や日曜日の営業など、来遊客に合わせた営業を行おうとする商店の活動を支援する。
3．来店者が安心して楽しめる環境づくりのため、少子高齢化に対応した商店街の整備や、接遇講座などを支援する。
4．商店街を花で飾るなど、歩いて楽しく買い物ができる環境と景観づくりを支援する。
5．商店街の売り物となる *一店逸品運動（解説 P.123）などの取り組みを支援する。
6．商店街の強みである対面販売や商品説明などにより、お客とのコミュニケーションを図り商店街の特長を生かすよう誘導する。
7．来遊客が楽しく買い物ができ、思い出に残る商店街となるよう、独自のおもてなしマニュアルの作成を支援する。
8．外国や首都圏からの観光客が日常と変わらずに買い物ができるよう、電子マネーへの対応など、購買システムの近代化を働きかける。
9．空き店舗の有効活用を図るため、若者のチャレンジショップなど新しい商売の芽が育つように支援するとともに、ギャラリーやいっぷく処にするなどまちの情報館としての整備を検討する。
10．商店街で閉店後のにぎわいを創出するため、美術部所属の学生などと連携し、シャッターのキャンバス化を支援する。

（2）地場産業の振興

1．技術の伝承や後継者の育成を図るため、商工会議所と連携し、経営基盤の近代化を促す。
2．需要の拡大を図るため、本市の地域資源を活用した食料加工品や工芸品の開発を促進するとともに、イベントや物産展などで紹介していく。

（3）経営の安定化

1．中小企業が経営環境の変化に対応できるよう、異業種間の交流や規格品質の向上につながる技術開発と知識の普及を支援する。
2．中小企業の経営の安定化を図るため、商工会議所などと連携し、制度融資の活用を促進するとともに経営相談体制を充実する。

2 農林水産業

1 農林業の振興

4-2-2-1

現状と課題

■ 農業就業者の高齢化と後継者不足により遊休農地が拡大しており、担い手育成や再農地化などが求められている。

■ 柑橘系以外の特産物がなく、新しい名産の開発が求められている。

■ 小規模農家で生産した自家消費以外の作物を流通させる機会が少なく、朝市など生産者と消費者がふれあう場の拡大が必要である。

■ 日本一の生産量を誇る「だいだい」の活用が限られており、新たな消費や活用方法の創出が求められている。

■ 猿・猪などによる農作物の被害が年々増加し、農家に多大な損害を与えており、有害鳥獣対策が求められている。

施策の方向

農林業の振興
- 農業基盤の整備と強化
- 地元特産物の生産促進とブランド化
- 林業基盤の整備

（1）農業基盤の整備と強化

1．ファミリー農園や観光農園の拡大など、余暇を利用した農業体験を受け入れる環境整備を支援する。

2．初心者が農業に興味を持ち、就労の場とできるように環境整備を援助する。

3．農業と他産業との連携を強化し、耕作されていない土地の新たな農業活用を図るための施策を展開する。

4．人手不足を解消するため、農業ボランティアなどの確保を図る。

5．後継者を育成するため、農業協同組合や部農会、農業委員会などに働きかけ、近隣市町の農業就業者との研修会やグループ活動などの交流を推進する。

6．宅地などへの農地転用が無秩序に行われないように農地の管理と保全に努める。

7．市民や生産者が有害鳥獣被害にあわないための講習会を開催し、知識を深めるとともに、自衛工事などに支援をする。

8．有害鳥獣の減少を図るため、猟友会やワナの会などと協力して駆除に努める。

（2）地元特産物の生産促進とブランド化

1．有機農業など付加価値のある農法の普及・拡大を図るため、静岡県や関係諸団体と連携して技術的指導を実施する。
2．農商工連携により、農業者の生産意欲の向上や価格安定につながる流通経路の整備や、情報発信の充実を図る。
3．生ごみの堆肥化などによる食の循環システムの構築を検討する。
4．地産地消の促進を図るため、地元生産物が新鮮で安全に提供できる朝市や直売所などを支援する。
5．学校給食への食材供給や農産物の収穫体験を通じた食育教育を推進する。
6．みかん狩りなど観光農園を促進するとともに、関連機関と連携して品質向上と情報発信に努め、「熱海みかん」のブランド化を図る。
7．特産品である「だいだい」のブランド化を図るため、新たな活用の検討を行うとともに、情報発信に努める。
8．新たなブランドづくりを図るため、貴重な資源である「あたみ桜」をイメージした菓子などの商品化を支援する。
9．猪や鹿の肉を新たな特産品として活用する方法を検討する。

（3）林業基盤の整備

1．林業の振興、森林レクリエーション機能を高めるため、林道や散策道を整備する。
2．森林機能を保つために森の力再生事業を活用し、間伐や植栽など森林管理を支援する。

2　水産業の振興

4-2-2-2

現状と課題

■　地場水産物の地元消費量が減っており、新たな消費先の開拓が求められている。
■　漁業就業者の高齢化と後継者不足により漁業が衰退しており、後継者や若年就業者の確保が重要な課題となっている。
■　漁港施設が老朽化しており、市場など漁業環境の再整備が求められている。
■　網代という地元の名称が消費につながっておらず、ブランド名として発信する必要がある。

施策の方向

水産業の振興
- 新しい観光漁業の推進
- 漁業基盤の整備
- 地場水産物と郷土料理の全国への情報発信

（1）新しい観光漁業の推進

1．漁業を観光資源化するため、干物や塩辛づくりなどの魚介類の加工体験や市場の競り見学体験などの観光プログラムを受け入れるための環境整備を支援する。
2．網代地区の水産業の活性化のため、産地市場を含め新たな漁業活性化計画を策定する。

（2）漁業基盤の整備

1．若者の漁業への就職を促進するため、職業体験などの実施を支援する。
2．停泊・係留施設の整備や漁港内における安全確保と静穏性の向上を県に要請する。
3．初島漁港における観光漁業を充実させるため、交流広場を拡張整備する。
4．育てる漁業を推進し漁獲量の安定を図るため、市場価値のあるヒラメやマダイなどの稚魚を放流する。
5．漁業者に古くから行われている定置網漁を継承させ、ブランド力の向上のため、流通や保管の近代化を支援する。

（3）地場水産物と郷土料理の全国への情報発信

1．網代そらこい祭りや伊豆山ささえ祭りなどを通じて、地域で獲れる魚介類をブランドとして情報発信する。
2．流通市場を調査検討し、地元で獲れた新鮮で安全な魚介類を提供する仕組みの創出に努める。
3．網代イカメンチなど地域の個性ある郷土料理をＢ級グルメとして情報発信に努める。
4．水産加工業の振興を図るため、インターネットなどによる販路の開拓や新商品の開発を支援する。

3 労働環境

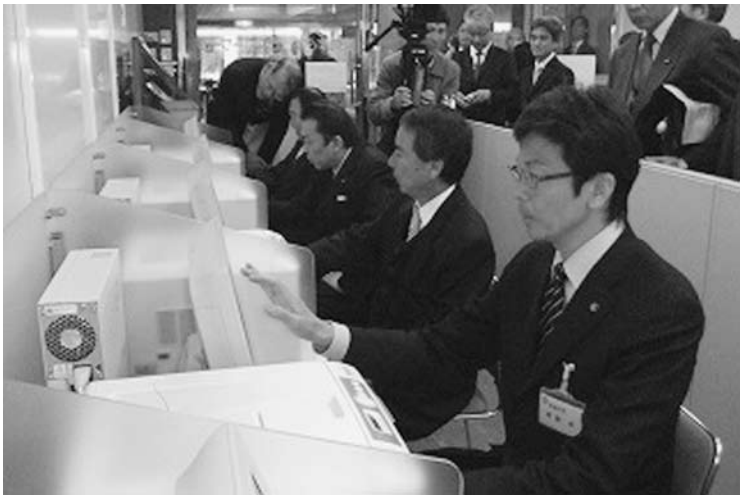
1 新たな産業と雇用の創出

4-2-3-1

現状と課題

■ 中小企業が大半を占める本市は、雇用が限られており就業機会の創出のため、求職者や失業者の働く環境整備が急がれる。

■ 基幹産業である観光業は、景気や経済情勢に労働環境が影響を受けやすいことから、新産業の創出や企業の誘致の検討が必要とされている。



施策の方向

新たな産業と雇用の創出
- 新たな産業の創出
- 雇用の促進
- 就業機会の創出

（1）新たな産業の創出

1．*ゲーミング産業（解説 P.124）のような景気に左右されず、地域の雇用が期待できる産業の誘致を検討する。

2．温泉エネルギーなど地域資源の活用による新産業創出の可能性を検討する。

3．静岡県東部地域産業活性化協議会で *企業立地促進法（解説 P.124）に基づき策定した「静岡県東部地域基本計画」を商工会議所などと協力して推進し、観光関連産業のビジネスチャンスの拡大を支援する。

（2）雇用の促進

1．雇用の促進を図るため、観光関連団体や商店街、農林水産関連団体と連携して求職者等の就労体験を実施する。
2．国・県などと協力して雇用の促進を行う企業を支援する。

（3）就業機会の創出

1．就業機会の確保を図るため、ふるさとハローワークや *ヤングジョブステーション（解説 P.129）などとの連携を強化する。
2．障がいのある人やひきこもり、*ニート（解説 P.127）などの就職を国・県と連携して支援する。
3．仕事と家庭生活との両立ができるように、企業や地域における子育てを支援し、子どもを育てる良質な労働環境を確保する。